

平成26年度世界エイズデーキャンペーンテーマ AIDS IS NOT OVER ～まだ終わっていない～

厚生労働省エイズ動向委員会から、2013年（平成25年）1年間のわが国のHIV感染者／エイズ患者の発生動向が発表されました。

○新規HIV感染者報告数は1,106件で過去2位

2013年の新規HIV感染者報告数は1,106件で、2008年（1,126件）に次いで過去2番目の報告数となっています。2008年をピークに、その後5年間はピークを超えずに推移してきました。2009年の減少理由としては、新型インフルエンザ発生によりHIV検査機会が減少したこと、または検査・相談行動が抑制されたことなどの可能性が考えられています。

○新規AIDS患者報告数は484件で過去最多

AIDS患者の年間報告数は増加傾向が続き、2013年は484件の報告があり、過去最多となっています。HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数のうち、AIDS患者報告数が約3割を占める状況が続いています。HIV感染後、適切な治療によりAIDS発症を抑えることができるため、AIDSを発症する前にHIV感染を早期発見することが重要です。

○HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,590件で過去最多

これまでの最高は2008年で1,557件（HIV感染者1,126件、AIDS患者431件）でした。新規報告数の合計は累積で23,015件となっていますが、1万件以上

がここ7年間で報告されており、近年の報告数が多い状況に変わりはありません。

○日本国籍男性の同性間性的接触が多数

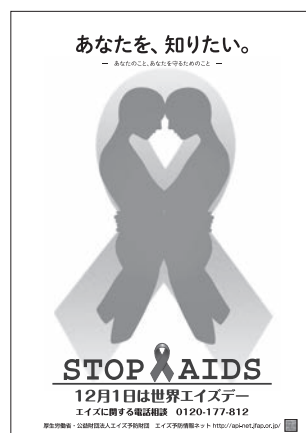
HIV感染者、AIDS患者ともに日本国籍の男性が多数を占めており、感染経路としては同性間の性的接触が過半数となっています。年齢では、新規HIV感染報告数は20から30代が多いが、新規AIDS患者報告数は30代以上が多く、ここ3年間では50代以上の伸び率が高くなっています。若年層のみでなく、50代以上の年齢層においてもHIV検査が重要となっています。

○おわりに

年間の報告者数は、2007年に初めて1,500人を超えてから高止まり状態にあります。

2011年から12年にかけては80人減少しましたが、12年から13年には141人の増加と、一進一退を続けています。感染は全年齢層にわたって増えており、静注薬物使用など、新たな問題も生じています。まさに、AIDS IS NOT OVER, まだ終わっていないのです。

（公益財団法人エイズ予防財団）



新規HIV感染者及びAIDS患者報告数の年次推移

